みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

東京オリンピックまで　あと274日
（2019年10月25日現在）

Alii（アリー）！ パラオ語でこんにちは

市では、来年に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、パラオ共和国選手団の事前キャンプやホストタウン交流事業をより円滑に進めるため、2017年度に引き続き、パラオ共和国からの研修生を2人受け入れました。また、東京2020大会終了後もパラオ共和国との継続的な交流やレガシー（遺産）創出のため、パラオ共和国で青年海外協力隊の隊員として活動していた本多美月さんを任期付職員として採用しました。

こんにちは。シェナ・セゲバオです。今回初めて常陸大宮市に来て、市民の皆さんはとても親切で、敬意を持って接してくれ、とても素敵なまちだと感じました。
私は、日本の文化や生活について学び、理解し、多くの友達を作りたいと思います。そして、常陸大宮市の皆さんにパラオについてさらに知ってもらえるよう、パラオの文化の紹介や、東京2020大会に向けた活動をしていきたいです。

ケネリー・レケメルです。私は、約2年前に常陸大宮市で研修をしていたので、今回は2回目になります。前回の研修で、基本的な日本語を学び、コミュニケーションが取れるようになりました。今回は、皆さんとより積極的に交流をしながら、ホストタウンの事業を通して国際交流事業やスポーツマネジメントについて学びたいと思います。

本多美月です。7月まで2年間青年海外協力隊の隊員としてパラオ共和国で、陸上競技の普及活動やナショナルチームの指導などをしてきました。東京オリンピックに向けて何かしたいという思いから応募した青年海外協力隊。任期終了後、常陸大宮市で2年間活動したパラオ共和国との交流事業や東京オリパラに携わることができることを大変嬉しく思います。パラオでの経験を常陸大宮市で共有して、市民の皆さんにさらにパラオに興味を持ってもらえるよう頑張りたいと思います。

ホストタウン交流事業モデルプロジェクト 8/19

パラオ共和国ペリリュー小学校で、ホストタウン交流事業を開催しました。今回は、国のモデルプロジェクトとして事業採択を受け、本市と関係が深いペリリュー州の小学校で、パラオと日本（常陸大宮市）の共通課題の一つである「環境」をテーマに交流事業を実施しました。

世界複合遺産を有するパラオは、環境に対する取組を積極的に進めています。プラスチックゴミの削減が課題であることから、日本や本市でも既に取り組んでいるエコバッグの活用を紹介し、ペリリュー小学校の子供達全員に、オリジナルエコバッグを製作してもらいました。

パラオの小学校では、図工や美術の授業がないため、子供達は、真剣にとても楽しそうに取り組んでいました。

また、市国際交流協会による日本の伝統的エコバッグでもある「風呂敷」包みの実演なども行い、特に学校の先生方に好評で、日本の伝統文化への理解も深めることができました。当日は、鈴木俊一東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣（当時）が、本市の交流事業を視察されました。鈴木大臣は、「このような取組を通して、常陸大宮市とパラオとの交流が、これからも長く続き、東京大会のレガシーを築いていただきたい」と述べられました。

▲どんなエコバッグができたかな？